

■自治ができていないこと■

項目	記載内容
基本理念（人権）	個人個人の生き方を心より尊重する姿勢が見られない
	モラル、マナーを無視すること（他人に必要以上に干渉がある）※プライベートな質問など特に
	UターンやIターン者への配慮（偏見的な見方をする人が多いため）
	男女共生の意識が薄い
基本理念（交流）	大学が無い為、学生との交流が出来ない
	性別や年齢にとらわれない世代を超えた交流（または交流の場）
	多国籍人種の受け入れ体制が不十分
	他市町村、都道府県へのPR活動
基本理念（郷土）	市民は野馬追にかける熱い思いが少ない（なぜ？）
市民の権利・責務	市民・住民自らの自治への参加が少なく、偏りが大きい
	市からの要請に対して、市民参加が十分にできていない
	一部の人にかたよる
	多くの市民の市政への日常的関心が低い
	市民意識が低い⇔市民も得てして身勝手
	自分たちがやるものだという気概がない
	↑
	行政におんぶにだっここといった慣例からなかなか脱却できない
市民懇談会への参加もひくい	
事業者の権利・責務	「まちづくり」に対する企業の理解度、認知度が比較的浅いと思う
	企業や自営業は経済優先で働く者の権利権利保護に消極的
情報共有の原則と施策	市民同士の行政に対する情報・意見交換の場があまりにもなさすぎるのでは
	転入者のための情報提供が不十分である
	ボランティア活動の情報を一まとめにしておく必要がある
	どこで、誰が、何を、成果は、構成メンバーは
行政情報を知る権利 執行機関の組織・執行体制	結果的に、デマ、勘違いの情報にまどい、批判、否定的意見に終始しがち
	合併により、市の組織機構が市民に明確に伝えられていない 又、組織の名称等がかわりすぎてわかりにくい
参加・協働の推進	ボランティア活動・市民活動の支援
	行政と住民との協働・共助による自治が少ない
	市民活動かそのものの規定がむずかしいが、なかなか広がりを見ない
参加の権利・責務	市民（人々）は会議等のルールや参加方法の訓練が不足している （自己主張のみ）
	「まちづくり」への参加機会の提供及びその提供が得られにくい

項目	記載内容
意見の提出及び募集	常に課題を明確にし、民意を広く収集することが不足している。
コミュニティの意義 と支援 基本理念（人権）	地域ごとのコミュニティの場がない
	集会所の利用に関しては限定された方々が多い。固定されている。
	住民の把握が十分でない
	「地域で子どもを見守り育てる」という基本の体制作りができていない
市及び執行機関の基本的な役割・責務 議会	各地区のリーダーが短期間故継続性にかける
	市長（行政）、議会、教育委員会の三本柱の独立性と協働性が見えない
	行政と議会の責務、透明性、公正性、民意の反映などへの努力が不足
市及び執行機関の基本的な役割・責務	権限を持つ行政、議会の自治体自身の自治ができていない
	合併後、一市二町の地域エゴが目立つが、早く一本化した目標が必要
市及び執行機関の基本的な役割・責務	税金の使い方（道の駅に疑問）（新図書館も場所を考えて…との声）
その他（危機管理）	安全・安心とことばでは言うが、はたしてどういものかまとめておく必要があるのではないか 例・危機に対する管理体制 ・事件や事故に対すること ・食に対すること（これが中心となり、概念的なことはみな解っていると思う） ・子供に対する保護の問題 など多々ある
政策（総合交通）	公共の交通機関がない
政策（交通安全）	通学路の安全確保
政策（環境保全）	河川が汚水で汚れている
	公園の美化
	ゴミの不法投棄や汚水による河川環境の悪化
	ペットの糞害（雲雀が原、仲町、北町ニュータウンがとくに凄い）
政策（都市計画）	公園整備
政策（雇用確保）	企業誘致
	労働力の確保
	雇用促進
政策（産業振興）	特殊産業（ウェットスーツ製造業など）中小企業支援
政策（中心市街地活性化）	駅前空洞化により、街中活性化がなされていない
	商店街活性化のバックアップ体制が不十分である
政策（観光交流）	海や野馬追など良いところは存分に利用すればよいのにイマイチできていない
	観光に力を入れるべきでは（馬ふん処理を徹底して下さい）
政策（窓口）	休日・夜間の行政サービス
政策（保健）	幼児医療費控除の延長（早生まれ遅生まれで格差がある）
政策（次世代育成）	学童保育の幅が狭すぎる
政策（次世代育成）	子供たちに関することを最優先にすれば、納税者である私たちの負担が、ゆくゆくは減っていくと思うのになされていない

項 目	記 載 内 容
政策（次世代育成）	学童保育
政策（高齢福祉）	高齢者ばかり優遇されている
政策（医療）	24時間体制（どの科も診てくれる）ではない病院
	役所の外壁が汚い。市全体のイメージアップの為に塗り替えてはどうか
	経済的、精神的支援不足

■自治を阻害していること■

項目	記載内容
基本理念（人権） 市民の権利・責務	人々の人権意識、自治意識の広がりが無い。 お互いの違いを認め合う気持ち・考えが行き渡っていない。 農山漁村などでは戸主の意見が重きをなす（封建的家父長制）
基本理念（環境）	環境保全への熱心な取り組みが不足しすぎている。
基本理念（交流） コミュニティの意義 と支援	国際化への理解・関心が非常に希薄 世代間の交流の場がない
基本理念（自立・自律）	自立・自律意識が希薄
基本理念（郷土）	南相馬市を愛する・好きである気持ちが大切なことだと分かっていない人が多すぎる（郷土を育む・愛する心の不足）。
市民の権利・責	市民（住民）の自分たちの市は「どんな市にしたいか」という意識が弱い →アンケート調査をしてみたいが時間がない →市で参考になるものがないか。例えば、市政懇談会の記録の中から該当するものがあればとりだしてみる。 原町市時代のアンケートはないか 「お上意識」が強く、何でも行政に頼りがち→責任も行政に押しつけて不満を述べるに止まっている。 市民の政治への関心の低さ 自分さえ良ければ…という考えがある 無知・無関心さ 自ら発言し、そのことばに行動をもって応えることが少ない 市（行政）に無関心
市民の権利・責務 市及び執行機関の基本的な役割・責務	自治とは何かの共通認識・理解の欠如
情報共有の原則と施策	「まちづくり」に関する情報の少なさが無関心を拡大させているのでは。 情報共有が、実質的にいきわたるように工夫が必要（現状を変えるため）
行政情報を知る権利 市及び執行機関の基本的な役割・責務 市民の権利・責務	この会も含め、各審議会等の委員が形式的→公募しても低調→趣（主）旨や目的などの重要性の説明が不足しているから。 情報の共有がなされていない
行政情報を知る権利	情報開示が十分でない →行政への参加を奪うことにもつながる 行政の情報開示が、市民のもとに届かない

項目	記載内容
参加・協働の推進	恒例な行事の後継者育成・人材確保（毎年同じような顔ぶれで行われていると耳にします。） 平和な昔も、自らを守る自警団はあった。 今は隣人もわからない。子供を守るといっても子供がどこに何人いることさえ解らない。 これで子供を守れるというのか。 お互い関心はある・必要性は感じるも、コミュニケーション不足や参加活動の仕組み、方法の理解の欠如 市民参加といいながらも、選ばれた人達のみでの集会的な時がある 日常的に組織的・制度的市民参加・参画制度を多くの市民が共有できるよう工夫が必要 ある目的、ある活動のための集団の育成が弱い 市民活動のサポートが弱い
意見の提出及び募集	行政へ意見が届いていないためニーズに合っていない 積極的意見を行政にとどけられるように市民の側の工夫も大切
市及び執行機関の基本的な役割・責務 市民の権利・責務 議会	行政・市民もそれぞれ自分たちの行動に責任感をもう少し持つことが必要（行動に対する責任） 自治体による自治（行政）は、市民・住民の信託が土台基本である事の認識が行政、議会、市民共に薄い 市民の立場で考えられていないことが多く行政の都合で色々決められている 議会、行政が、市民と同じスタートラインにたっていない場合が多く感じる
執行機関の組織・執行体制	市全体・市の有様を見通した組織に行政がなっていない 責任の所在が不明瞭な構成
財政運営の基本事項	財政基盤が弱い
議会	主に市議会の内容だと思う。 自治体の精神にのっとった内容ではなく、党とか、仲間のメンツのため本題をないがしろにして、おろかしい議論にあけくれている。
政策（環境保全）	下水道使用の義務を 下水道使用が義務化されていないの
政策（交通安全）	暴走・違法行為についての（日中も夜間も多いです）取り締まり強化がまだ欠如しているように思える。
政策（観光交流）	観光客への対応不足（宿泊施設の少なさ、駐車場も不足、案内役は） 毎日の生活に「ゆとり」がない 生活パターンの偏り、男と女間、世代間、高齢者と労働力人口等 新しい事柄を取り入れようとする勇気・意識がない 大人の消極的（悲観的）思想が若者の行動を抑制している 個人個人のマナーがなっていない 保守的な考え方 地域格差

■自治ができていること■

項目	記載内容
基本原則（協働）	行政にも市民にも協働という意識の上に自治ができているところが出て来ている
行政情報を知る権利	最低限の情報公開がなされている（生活に支障のない部分の範囲内で）
	広報誌の発行が、月2回
	南相馬市緊急情報メールサービス
意見・要望・苦情等への対応	市長への手紙とその後の対応
	公報等で、市民の意見を直接市長へ届けられるシステム
参加・協働の推進	自らの事を主体的に取り決め行っていく組織は非常に多くあると思います。ボランティア活動は正に自治の出発点であろうと思います。
	子育てグループなどの組織化による活動の活発化
	各団体は、それぞれにまとまりをみせている
	生涯学習センター等を利用して、サークル活動が盛んになってきている
	NPOをはじめ各種ボランティア団体が自主的に公共のための活動を創り上げている
	市内の人材を上手く重用している（出前講座など）
参加・協働の推進 コミュニティの意義と支援	地域（行政区）のまとまり→隣組組織が一応できている→加入していない人や活動に参加できない人への対策を検討する必要はあるが
	ゴミ対策も行政区で一応できている
	クリーン作戦によるごみ収集（ある程度環境が守られていると思える。）
	各行政区単位では、それぞれ活動が活発に行われている
	住民によるゴミ集積所の管理や防犯パトロール等の実施が「自治ができている」という事ならたくさんあると思うが、他の機関の代替・肩代わりであれば真の自治とはいえないと考える。
	スポーツ・文化活動のグループが他市町村に比べてたくさんあつてうまく運営されている
参加の権利・責務	公募委員や市民参加の呼びかけがあること
コミュニティの意義と支援	隣組での回覧、懇親会などの取り組み
	いも煮会やどんと祭などの行事が長年にわたり恒例となっていること
政策（福祉）	ハンディキャップのある方も使いやすい様にハード面が充実してきている
政策（子育て支援）	未就園児への支援センター開放
	センター主催の行事 e t c …
	子育て支援、児童手当の延長
	子育てサークルを行う場の無料提供
政策（教育）	サタデースクール
	総合型地域スポーツクラブ
	新図書館事業

項目	記載内容
政策（次世代育成）	ひばり生涯学習センターなどの子ども向け事業
	民生委員、児童福祉委員など大変な仕事であるが、それぞれに役目を果たしている→行政との連携は良い→委員の待遇に改善が欲しい
	感じない

■自治の萌芽（めばえ）■

項目	記載内容
市民の権利・責務 市及び執行機関の基本的な役割と責務	少しづつ自治への意識の高まりが見られる。 例・議会傍聴人の増加 ・住民への行政側の対応
市民の権利・責務 参加の権利・責務	パブリック・コメント他、公募の政策策定委員に応募する人々がふえている（つつある）
市民の権利・責務 行政情報を知る権利	議会傍聴が少し増えた
事業者の権利・責務	（とくに）「父親と子供がよりよく交流できるように、例えば、企業に（年に数日でもいいので）子育て休日を」との意見もありました。 次世代の為、よりよい環境で子育てをしたいと多くの方が考えているようです。
参加・協働の推進	いきがいくつの中でも文化活動面ではサークル活動など深まっている ボランティア活動の多様性がみられるがもっと活動人口を 文化的活動が活発に行われている 環境美化に努めている家庭や地域が増えてきている（花いっぱいになった） まちににぎわいを創出するなど、方向性に問題があるものの動きが出て来たことは良い。 （ただ、行政からの補助をあてにしたのではすべては失敗におわる。） 子ども見守り隊、地区福祉委員会、一戸一灯運動、サロン開設などが認められ発足しつつある 子育てサークル全般 個人宅での文庫活動 市民活動サポートセンター 一般公募等により、市民参加となり協働のまちづくりに一歩前進 NPO、NGOの団体が少し増加している。 いろいろな団体の活動報告やPRやイベント情報のちらし、パンフが増加（つくり方に工夫が必要だが）
参加・協働の推進 コミュニティの意義と支援	子どもたちを安全に守るための取り組みが盛んになってきつつある
参加・協働の推進 コミュニティの意義と支援	地域見守り隊の活動 隣組制度、民生員制の中で自主的な活動も多少見られる。
コミュニティの意義と支援	障がい者に優しい町になってきていると感じるが、反面、隣近所に誰がいるのか解らない不安がある

項目	記載内容
意見・要望・苦情等への対応	「市長への手紙」等により、市民の声をすい上げ、改善の兆しあり
政策（安心安全）	一家一灯運動の実施
	なし 第2の夕張になりたくないという意見が多数 相馬が羨ましいという求職者が多数（職安でもあまり原町や小高、かしまの求人はないようで…）とにかく働ける人が増えれば経済も潤うので…という意見が多いです。
	保育園（先生・園児）と子育て世代の交流
	消防等、旧来の組織を自治の概念からとらえなおす必要があると思われる
	特に感じない
	子育て世代にはよい環境だが、若い世代には生きづらい
	安心安全に暮らして生きたい